

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

インド、インフレ抑制へ追加の金融引き締め (Asia Weekly (6/13~6/17))

～韓国の失業率は底堅い生産を背景に6ヶ月ぶりの低水準に～

発表日: 2011年6月20日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/13 (月)	(香港) 1-3 月期鉱工業生産 (前年比)	+3.5%		+5.7%
6/14 (火)	(中国) 5 月消費者物価 (前年比)	+5.5%	+5.5%	+5.3%
	5 月小売売上高 (前年比)	+16.9%	+17.0%	+17.1%
	5 月鉱工業生産 (前年比)	+13.3%	+13.1%	+13.4%
	1-5 月都市部固定資産投資 (前年比)	+25.8%	+25.2%	+25.4%
	緊急金融政策委員会 (預金準備率/大銀行)	21.50%	-	21.00%
	(インド) 5 月卸売物価 (前年比)	+9.06%	+8.74%	+8.66%
6/15 (水)	(ニュージーランド) 1-3 月実質小売売上高 (前期比)	+0.9%	+0.9%	▲0.4%
	(韓国) 5 月失業率 (季調値)	3.3%	3.7%	3.6%
	(フィリピン) 4 月海外労働者送金 (前年比)	+6.3%	-	+4.1%
	(シンガポール) 4 月小売売上高 (前年比)	+8.1%	+3.6%	+0.8%
	(前月比/季調値)	+5.7%	+1.0%	+4.7%
6/16 (木)	(インド) 金融政策委員会 (レポ金利)	7.50%	7.50%	7.25%
	(現金準備率)	6.00%	6.00%	6.00%
	(フィリピン) 金融政策委員会 (政策金利)	4.50%	4.75%	4.50%
	(香港) 5 月失業率 (季調値)	3.5%	3.5%	3.5%
6/17 (金)	(シンガポール) 5 月非石油輸出 (前年比)	+7.8%	+4.4%	▲2.0%
	(前月比/季調値)	+7.5%	+4.3%	▲3.7%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

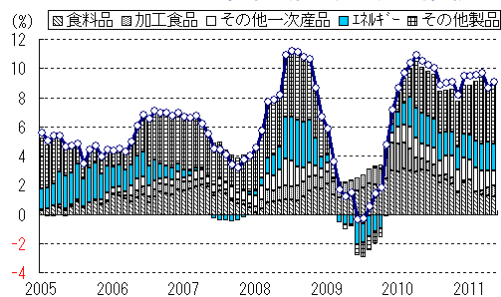
[インド] ～裾野の広い物価上昇が確認されており、金融当局は追加的な金融引き締めを実施～

14日に発表された5月の卸売物価は前年同月比+9.06%となり、前月(同+8.66%)から加速した。前月比も+0.73%と前月(同+0.74%)並みに上昇しており、一次産品価格の上昇は一服したもの、食料品や工業品価格の上昇は続いており、物価上昇圧力の裾野は拡大している。金融引き締めにも拘らず、足元のマネーサプライは再び伸びが加速している。さらに、原油市況の高騰による燃料価格への転嫁は進んでおらず、しばらくは物価上昇率の高止まりが予想される。

16日、インド準備銀行は定例の金融政策委員会(金融政策中間レビュー)を開催し、レポ金利を25bp引き上げて7.50%とすることを決定した。前回会合でリバースレポ金利とスタンディング・ファシリティーの適用金利をレポ金利と連動させることを決定していたことから、今回の変更でそれぞれ6.50%、8.50%となる。当局は昨年春以降レポ金利を累計250bp引き上げており、前回は市場予想を上回る50bpもの利上げを行っていた。それにも拘らず、5月の卸売物価は「容認できない水準」であったことから、先行きの金融政策について「物価抑制的なスタンスの維持が必要」との認識を示し、追加の金融引き締めに踏み切った。当局は先行きの景気について、「短期的に経済成長の減速は避けられない」との認識を示しており、短期的な経済成長を

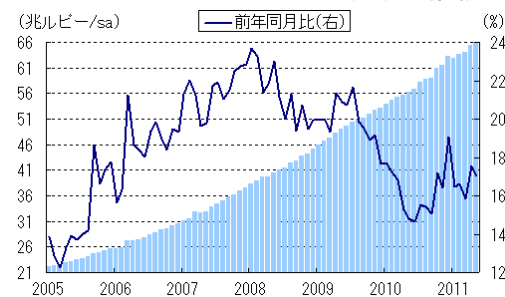
犠牲にしても物価抑制を進める必要があるとしている。なお、同国統計計画実施省は今年10日付で鉱工業生産指数の基準年及び測定範囲を改定したが、これによって足元の景気の底堅さが確認されたことも追加利上げの実施を後押しした。さらに、当局は足元のエネルギー価格は国際原油市況の上昇を十分反映していないとの見方を示しており、これらによってインフレ率は当面強含みの基調が続くと見込まれることから、今後も利上げを継続する可能性はあろう。

図1 IN 卸売物価(前年比)の推移



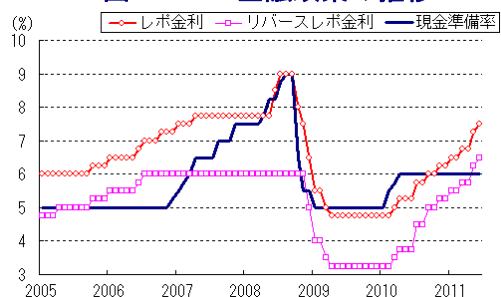
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN マネーサプライ(M3)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 IN 金融政策の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 IN 鉱工業生産の推移

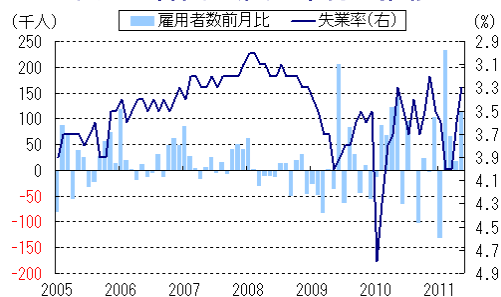


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【韓国】 ～失業率は6ヶ月ぶりの低水準。先行きの生産は堅調が見込まれる～

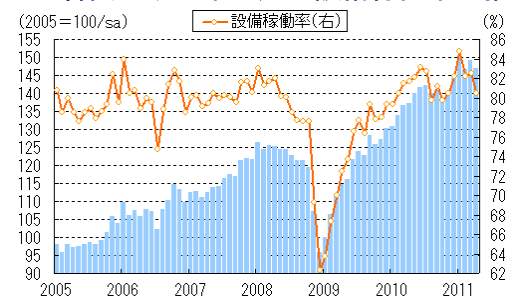
15日に発表された5月の失業率(季調値)は3.3%となり、前月(3.6%)から0.3p改善して6ヶ月ぶりの低水準となった。雇用者数は非正規雇用者を中心に前月比+11.2万人と4ヶ月連続で増加しており、失業者数は前月比▲6.9万人減少している。一方、4月の鉱工業生産は東日本大震災による部材不足などが下押し要因となり前月比▲1.5%と2ヶ月ぶりに減少し、平均設備稼働率も80.5%に低下した。しかし、大震災の悪影響は早期に収束する見込であり、雇用・所得環境の改善の状況からも、5月の生産は堅調が見込まれる。世界経済の先行き不透明感で輸出は調整する可能性はあるものの、年後半にかけて生産や雇用は緩やかに拡大しよう。

図5 韓国 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 韓国 鉱工業生産と設備稼働率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【フィリピン】 ～過去2回の利上げの効果を見極めるべく、金利を据え置くも預金準備率を引き上げ～

15日に発表された4月の海外労働者送金額は前年同月比+6.3%となり、前月(同+4.1%)から加速した。

米国景気の減速や、中東・北アフリカ情勢悪化の影響などにより、年明け以降の流入額は頭打ちしているが、依然底堅く流入している。

16日、フィリピン中央銀行は定例の金融政策委員会を開催して、政策金利である翌日物借入金利と翌日物貸出金利をそれぞれ4.50%、6.50%に据え置いた。5月の消費者物価は前年同月比+4.5%と前月(同+4.3%)から加速したが、当局の定めるインフレ目標(3~5%)に収まっており、前月比は横這いとなるなど上昇基調に一服感が出ている。コア物価は前年同月比+3.7%と前月(同+3.3%)から加速したが、前月比は+0.18%と前月(同+0.48%)から上昇ペースは鈍化しており、当局は今後、過去2回(累計50bp)の利上げにより物価上昇率は低下するとの認識を示している。なお、海外資金の流入により過剰流動性は煽っていることから、当局は24日付けで預金準備率を100bp引き上げる決定を行っている。

図7 PH 海外労働者送金流入額の推移

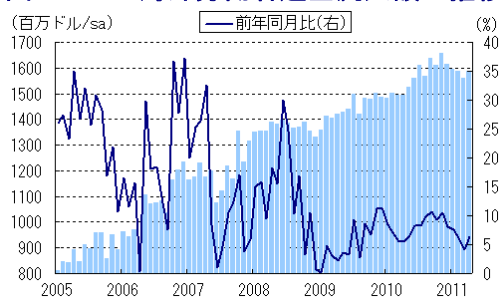


図8 PH 為替相場の推移



図9 PH 政策金利の推移

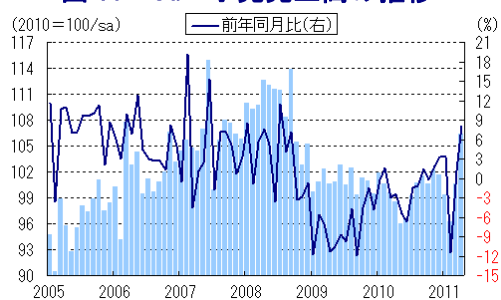


[シンガポール] ~雇用改善を背景に内需は旺盛に推移、大震災の影響が一巡して貿易量に回復の兆し~

15日に発表された4月の小売売上高は前年同月比+8.1%と、前月(同+0.8%)から加速した。前月比も+5.7%と前月(同+4.7%)を上回り、自動車を除いたベースでも同+3.8%と前月(同▲1.4%)から増加に転じた。1-3月期の失業率は1.9%と雇用改善が進んでいることや、通貨SGドル高誘導によって4月の消費者物価は前年同月比+4.5%と前月(同+5.0%)から落ち着いてきていることが消費を下支えしている。なお、実質ベースの小売売上高は前月比+5.2%となり、自動車を除いても同+3.6%に増加。特に、宝飾品や服飾品など高額商品の消費が活発化している。

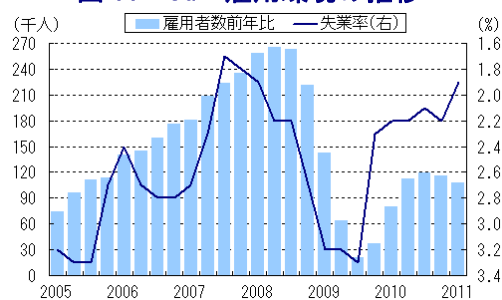
17日に発表された5月の非石油輸出は前年同月比+3.7%と前月(同▲2.0%)から増加に転じた。前月比も+7.5%と3ヶ月ぶりに増加しており、東日本大震災の影響でアジア域内の物流が滞った影響が一巡した。なお、原油を含む総輸出額も前年同月比+9.6%と前月(同+4.9%)から加速しており、前月比も+2.6%と前月(同▲2.3%)から増加に転じている。一方、輸入額は前年同月比+18.0%と前月(同+4.5%)から加速しており、前月比も+4.8%と前月(同▲6.4%)から増加。結果、貿易収支は+30.46億SGドルの黒字と前月(+43.98億SGドル)から黒字幅が縮小している。

図 10 SG 小売売上高の推移



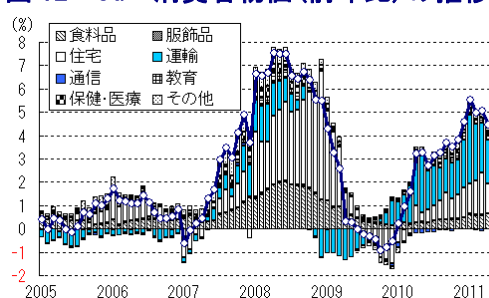
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 11 SG 雇用環境の推移



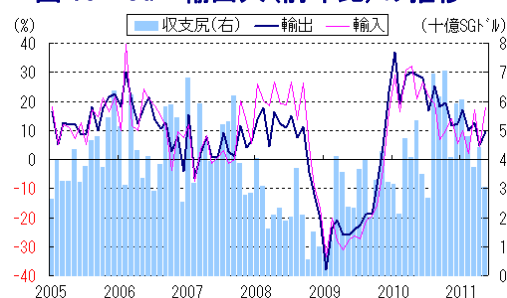
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 12 SG 消費者物価(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 13 SG 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上